

網生簀による養鰻試験

新崎盛謙

新しい養鰻法の1つとして網生簀による養殖が近年注目されていることから沖縄各地に点在している未利用溜地での網生簀養鰻法の普及を計るための予備試験を実施したので、その概要を報告する。

試験の方法と材料

試験期間 1969年4月22日から1969年6月10日まで

試験場所 本所試験池

生簀はモン網で作成(70×90×90cm)鉄枠に生簀を固定設置し8ℓ/minの水量を常時注入し半流水式とした。又生簀の中に1インチパイプ(塩化ビニール)を30cmの長さに切断したものを10個を入れた。

供試材料は1968年に台湾から導入したものの繰越原料を使用した。餌料は市販の人工配合餌料を使用(配合餌料1 水1 理研フィードオイル0.1の割合)で混合し1日1回午前9時~10時の間に給餌した。

結果と考察

試験の結果は第1表のとおりである。

第1表

給餌 日数	放養時		取揚時		増重量g	給餌量g	餌料係数	減耗 尾数	水 温
	重量g	尾数	重量g	尾数					
35日	2,100	64尾	3,300	63尾	1,200	8,800	7.3	1	19.0 } 23.2

イ 餌料係数が7.3であつたことは試験期間の長い割に給餌日数が少なかつた結果であると思われる。

ロ 網生簀養鰻の際、最も問題となる。網の破損によるウナギの散逸は認められなかつた。これは試験池内で試験を実施したため、物理的な障害が全くなかつたためであろう。

ハ 網ズレによる病鰻の発生も認められなかつた